

大自然に抱かれ、のびのび子育て

緑の大地、クリーンエネルギー、手厚い子育て支援策。そして、地域の人たちの温かいまなざし。理想の子育て環境を求めて葛巻での暮らしが始まった。



自然と共生した暮らしを葛巻町で実現した南館さん一家

県立高校教諭の南館晋さん(39)は二戸市出身。元小学校講師の則江さん(36)は岩手町出身。夫妻の自宅にはいつも子どもたちの元気な声が響いている。上から長女(8)、次女(7)、長男(4)、次男(2)の仲良し4人きょうだい。庭に出ると、サクラの木に登ったり、草の陰にいる虫を見つめたり、冬にはそり滑りをしたり、季節に合わせて遊びが変わる。好奇心も旺盛だ。「自然の中で子育てをしたい」と二人で描いた夢を葛巻でかなえた。

町役場の協力を受けながら2年かけてじっくり土地を探し、2013年に小屋瀬地区に木造2階建ての新居を構えた。晋さんは「夏は風の通り道で涼しく、氷点下20度にもなる冬でもまきストーブ一つで家全体が暖まる設計。リビングの窓の採光にも工夫を施してもらった」と話す。以前の生活と比べて光熱費は大幅に減った。

長女と次女が通う小屋瀬小は全校児童が21人。全学年が複式学級、長女の同級生は3人だ。則江さんは「授業中何度も発言する。子どもたち全員に活躍の場があり、毎日必ず主役になる」とほほ笑む。自然愛護少年団、陸上やサッカー、ユニホックの大会、子ども会、消防演習など年間を通してフル回転だ。晋さんも「一人一人をしっかり見てくれるので安心」と小規模校ならではの良さを実感している。

保育や医療の支援策も充実。保育料は年長組が無料、きょうだいの3人目以降も無料だ。医療費負担ゼロは高校3年生まで続く。クリーンエネルギーの先進地であることも移住を後押しした。「子どもと見る地域の未来が明るいから、震災後は特に考えるようになった」と則江さん。近くのくずまき高原牧場から羊毛を分けてもらって染色をしたり、雑穀入りおやつやレシビも増えた。地域の人たちから教わる暮らしの知恵や文化が家族の時間をより豊かにしてくれる。

結婚・子育て応援メニュー

新婚ライフサポート金交付

婚姻届出時に夫婦とも45歳未満で町内に住所を持つ場合に、10万円分の「くずまき商品券」を交付。

マタニティーライフサポート

妊婦に妊娠期間中の通院等の支援のため5万円を交付する。また、出産に伴う家族等の宿泊費用を1万円まで助成。

乳児等医療費助成

高校3年生まで医療費負担を全額助成。

妊産婦医療費助成

妊娠5カ月目から出産した翌月の末日までの医療費を所得などの制限なく全額助成。

不妊治療助成

県の特定不妊治療助成事業を受けた人に年間10万円を5年を限度に助成。

保育料一部無料化

年長児と、第3子以降(18歳未満のきょうだいから数えて)の保育料を無料化。

くずまきキッズ予防接種

おたふくかぜ、みずぼうそう、ロタウイルス等任意の予防接種の費用を助成。

エンゼルおむつ券交付

新生児におむつ購入券2万円分を交付。

チャイルドシート貸出

子どもがいる家庭1世帯1台までチャイルドシートを無償で貸し出し。

奨学金制度

葛巻育英会
葛巻高校へ入学する生徒と、葛巻高校から大学へ進学する生徒に奨学金を貸与。

三浦梧楼(ごろう)育英会
葛巻高校を卒業し、国公立大学へ進学する生徒に奨学金を貸与。

看護師等養成就学資金貸付制度

看護師などの医療職種を目指す学生に、月額10万円の学費を貸し付ける。免許取得後、一定期間町が指定する医療機関等に勤務した場合、返済の一部または全額を免除。

放課後児童保育

小学校の空き教室などを利用して、放課後の児童を預かる。6年生まで受入れ可能。

子育て支援センター

母親サロン、子どもの遊びの広場、離乳食教室など多数のメニューを実施。育児相談にも応じている。

▶問い合わせ: 葛巻町・いらっしやい葛巻推進室 (0195-66-2111)